

重点プロジェクト計画概要一覧表（北陸ブロック）（令和8年度）

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関（役割分担）					活用事業
						市町村	JA	民間企業	試験研究機関	その他	
新潟県	1	施設園芸におけるデータ駆動型農業の実践体制づくりに向けた検討	R7～R8	野菜、スマート農業	○地域の現状と課題 県内の施設園芸では生産性向上を目的にICT機器の導入は進んでいるが、取得データの栽培管理への活用は十分とはいえず、各種データを管理判断に結びつける手法の確立と実装が課題である。 ○目標を達成するための活動方法 対象圃の調査を通じて管理判断に有効なデータ指標を整理・検証するとともに、複雑なデータ集計の簡素化を進め、現場で実践可能なデータ活用手法の確立と実装を図る。		各地域JA：農業者との調整および調査補助。		県園芸研究センター：データ解析および活用方法に関する助言。	各地域普及指導センター：対象圃における調査およびデータ活用の実践。	
新潟県	2	水稲乾田直播栽培技術の低コスト・省力化実証及び導入	R7～R8	水稲	○地域の現状と課題 ・農地の集積・集約化が進み、従来の移植栽培では春作業が集中し、労力や施設・機械の不足、移植時期の遅れにより規模拡大が困難になっている。対策技術として、現地における乾田直播導入の有用性を検討する。 ○目標を達成するための活動方法 ・乾田直播栽培（初冬直播・プラウ耕鎮圧・V溝直播）の実証は、先進実践経営体の調査により、導入条件や省力化・低コスト効果等の導入メリットを検討する。			農業機械メーカー 農業機械の講習や実演等	新潟県農業総合研究所 基礎研究部、作物研究センター、関係地域普及センター 調査研究等		
富山県	1	気象変動に強い高品質で安定収量の確保に向けた主穀作の生産推進	R6～R8	稲作、普通作物、スマート農業	・近年の稲作期間の高温に対応して、「温暖化に対応した米産地への転換」を推進している中、消費者や実需者に高く評価・支持され続けるため高品質で味のよい米づくりを一層推進する必要がある。 ・大麦については、実需者から主食用途として高い評価を得ているが、気象等の影響により年次間の収量や品質の変動が大きい。大豆については、近年、高温・少雨下で小粒化等により収量が低い。 ・また、生産現場ではスマート農機の導入が進んでおり、技術実証による農作業の省力化や軽労化に向けて推進することが必要である。 ○目標を達成するための活動方法 ・消費者に求められる米の生産を推進するため、生育・気象に対応した技術対策の策定と情報発信による収量・品質の高位安定化技術の徹底を図る。また、温暖化リスクの低減を図るため、高温耐性品種の作付拡大を推進する。 ・大麦・大豆は、生育・気象に対応した技術対策の策定と情報発信による基本技術の徹底を図る。また、非主食用米の安定生産と土地の高度利用による水田フル活用の推進を図る。 ・環境負荷低減に向け、環境負荷低減肥料の実用化に向けた取組みを推進するとともに、スマート農機等の活用による省力化・軽労化に向けた生産技術を実証し、普及推進を図る	・地力増進や水田フル活用に向け、地力増進作物の作付けを図る。	・地力増進や水田フル活用に向け、地力増進作物の作付けを図る。	農業研究所との連携 ・試験研究成果を共有し、普及推進を図る。 ・生育等評価や助言により、現地実証ほの適正な運営を図る。	米作改良対策本部による技術対策の徹底 ・水稲、大麦、大豆の収量・品質の高位安定化を図るため、関係機関と連携し技術対策の徹底を推進する。	(国)農作物栽培管理情報システム化事業 ・水稲、大麦、大豆の収量・品質の高位安定化を図るため、関係機関と連携し技術対策の徹底を推進する。 (国)「富富富」生産振興対策事業 (国)とやま型水田フル活用推進事業 (県)高生産性大豆生産運動事業 (県)大麦生産特別促進事業 (県)「富富富」戦略推進事業	
富山県	2	ICTを活用した指導体制強化等による「富山の野菜新時代」の創造	R6～R8	野菜、スマート農業	○地域の現状と課題 ・本県では、生産者の高齢化と新規就農者の受入・育成体制の整備の遅れから、既存産地の多くが急速に縮小している。 ・技術・経営のモデルとなって産地をけん引するリーディング経営体の育成とそのモデルの横展開によって園芸生産の拡大を図ることとしている。 ○目標達成に向けた活動方法 ・ICTの活用等による指導体制の強化とリーディング経営体の育成 ・動画コンテンツの作成・発信や指導者研修会の開催による地域指導力強化と水田園芸拡大品目等の大規模・高単収経営体の育成 ・若手野菜専作経営体等の支援体制の強化と高収益モデル経営体の育成 ・既就農者向けの短期研修（高度利用・周年栽培コース）や農林振興センター等との連携した定期巡回指導 ・環境制御ファーストステップ研修や経営目標達成に向けた伴走支援による高収益モデル経営体の育成とモデル経営体を核とした研修体制の充実		全農 ・県出荷協議会研修会開催		出荷協議会 ・水田園芸拡大品目の栽培研修会、ほ場巡回研修会、出荷反省会 農政局水稲事務所 ・地下かんがい・ICT実証実施	(国)グリーンな栽培体系加速化事業 (国)農作物栽培管理情報システム化事業 (国)果樹経営支援対策事業 (国)グリーンな栽培体系加速化事業 (国)新規就農者誘致環境整備事業	
富山県	3	既存果樹産地の基盤強化と新品目の推進による県産果実の供給拡大	R6～R8	果樹、スマート農業	○地域の現状と課題 ・県産果樹生産は、日本なしやりんご、干し柿等の大規模産地や主穀作経営体が複合化品目として導入したりんご、ももの地縁産地などで形成されている。一方、これらの産地では生産者の高齢化や後継者不足等により栽培面積や出荷量の減少等産地の脆弱化が懸念されている。 ・既存の日本なし、りんご産地では、近年の高温・多雨等の異常気象により主要病害虫の発生が顕在化している ・近年、県産ぶどうの動きが活発となっている。このため、今後、県産果実の供給拡大や果樹主業農家の確保・育成を図るには、ぶどうの振興が不可欠となっている。 ○目標達成にむけた活動方法 ・果樹産地の経営継承に対する理解醸成を図りながら、担い手対策として①産地に対する受入れ体制整備、産地提案書の作成支援②就農コーディネーター等との連携した園地受委託マッチングの推進、③継承者の技術取得支援等による定着化支援を行う。 ・日本なしでは対策プロジェクトチームのほか、ベンチャー企業が目指す発生予測AIアプリの開発、りんごでは産地が行う病害虫調査会等の活動支援を行うとともに、定期的な巡回調査等で発生状況を把握し、リアルタイムで効率的な普及指導を行う。 ・ぶどうではプロジェクトチームを中心に引き続き、①「産地プラン」に基づく既存産地の活性化、②新規の経営体の規模拡大、技術習得、③多様な販路開拓支援を実施優良経営体を育成する。	・園地情報取りまとめ、受委託マッチング ・就農準備支援	・園地情報取りまとめ、受委託マッチング ・就農準備支援	県内市場 ・販路提案、イベント運営等支援	病害虫防除対策技術	(公社)県農林水産公社 ・園地受委託マッチング推進体制の構築 園振協果樹生産部会 ・導入啓発研修等	(県)稼げる！とやまの園芸産地支援事業 (国)農作物栽培管理情報システム化事業 (国)果樹経営支援対策事業 (国)グリーンな栽培体系加速化事業 (国)新規就農者誘致環境整備事業

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関（役割分担）				活用事業
						市町村	JA	民間企業	試験研究機関	
富山県	4	花きの持続可能な生産体制の構築とリーダー/経営体等の担い手の経営基盤強化	R6～R8	花き、スマート農業	○地域の現状と課題 ・チューリップ球根は、生産者の高齢化に伴い生産者数・栽培面積ともに減少傾向で気象変動に対応した栽培技術の推進による生産量や品質の確保が重要になっている。 ・チューリップ切り花は省力化と施設利用の効率化が進み、出荷量が増加傾向にあるものの、燃油高騰に加えて、近年は輸入球根の単価高騰が続き、経営環境が悪化している。 ・キク類では、既存生産者の高齢化により生産量が減少しており、省力機械化体系の普及が求められている。 ・物流2024年問題や輸送経費の上昇により、県外出荷品目のトラックへの積載効率の向上、出荷に係る荷役作業時間の削減、軽労化が求められている。 ○目標達成に向けた活動方法 ・チューリップ球根の担い手対策では、①新規経営体の受入・支援体制の整備と定着化支援、②作業受委託体制の構築支援を行う。また、品質向上プロジェクトチーム活動として、病害等発生状況把握、試験場と連携した技術対策の提示、品質・収量向上技術の実証を行う。 ・チューリップ切り花では、基本技術の徹底や環境制御技術の導入推進による出荷量・出荷率向上、首都圏等販売促進PRに取り組む。 ・キク類では、品種特性に基づく品種導入、電照栽培の普及を図る。また、省力機械化体系を推進するための動画コンテンツを作成し、省力・軽労化を推進。 ・県内外市場と連携し、契約取引の推進、ニーズのある品目・作型等出荷期間の拡大、パレット・台車輸送等省力化による流通の効率化に取り組む	球根組合、各ブランド ・作業受委託体制の構築 ・各種研修会等開催 ・ネット栽培機械運用、種供給品種選定 ・品種特性等情報提供 JA全農とやま、各JA ・契約取引の拡大及び県外出荷等の新たな販路開拓の支援 ・契約的取組への参加誘導	市場 ・契約取引の拡大及び県外出荷等の新たな販路開拓の支援	・病害発生予察、収量年次変動調査 ・品種特性等情報提供		(国)中山間地農業支援事業 (国)グリーンな栽培体系加速化事業 (県)球根検査事業 (県)稼げる！とやまの園芸産地支援事業 (県)次世代に向けたチューリップスマート団地支援事業 (県)とやま型水田フル活用促進事業 (県)葉用作産地確立支援事業 (国)農作物栽培管理情報システム化事業
富山県	5	生乳生産性・品質向上等による酪農経営の安定	R6～R8	畜産、スマート農業、経営	○地域の現状と課題 ・これまで経産牛1頭あたりの年間乳量は、飼養管理の改善、遺伝的な改良等により増加傾向であったが、R5年夏季の暑熱ストレスの影響により出荷乳量が減少した。 ・県内全体の体細胞数の低下等の乳質改善が進むが、一部の酪農家では依然として乳質改善が必要な水準にある。 ・酪農の経営環境は、①飼料価格の高騰、②子牛販売価格の低下等により、厳しい経営環境が続く見通しである。 ・近年の厳しい経営環境の長期化を踏まえ、各酪農家の投資体力に十分配慮が必要である。 ○目標達成に向けた活動方法 ・乳牛の観察に基づく飼養管理の改善、牛群検定を活用した改良の推進、スマート農業の活用による作業負担の軽減等により、生乳生産性向上に向けた総合的支援を行う。 ・自給飼料の生産利用拡大、エコフィードの活用等により外部環境変化を受けにくい安定した酪農経営を目指す。 ・融資関係機関等の意見を踏まえながら、各戸の投資体力に十分に配慮し、慎重な対応を進める。	・経営改善支援	・経営改善支援		畜産振興協会 ・経営改善支援 (県)大家畜牛群改良推進事業 ・牛群検定事業の推進 家畜保健衛生所 ・感受性検査等 ・家畜衛生に関する指導	(国)とやまの畜産暑熱対策支援事業 (県)大家畜牛群改良推進事業 (国)飼料価格高騰経営安定緊急支援事業 (国)飼料生産資材価格高騰緊急支援事業 (国)耕畜連携濃厚飼料生産利用支援事業
富山県	6	多様な消費者ニーズに対応した肉用牛生産基盤の強化	R6～R8	畜産、スマート農業、経営	○地域の現状と課題 ・近年、自然災害等が多発しており、これらの影響で農場運営の機能停止・低下が懸念される。 ・肉用牛の高品質安定生産と経営の持続的発展のため、生産基盤の強化や新規就農者の確保、育成に加え、和子牛及び肥育牛の飼養管理の適正化による増体や枝肉品質の高位平準化が必要。 ・繁殖経営では、育種価の向上等、肉用牛の改良が進み、スマート農業技術の導入で生産性の向上と省力化を実現する者がいる一方、飼養管理技術が不十分のため市場評価の低い子牛の出荷もみられる。 ・国際情勢の悪化の影響を受け、国産飼料の確保は喫緊の課題となっている。 ○目標達成に向けた活動方法 ・畜産GAPや農場HACCPの認証継続支援を実施、BCP(事業継続計画)のチェックリストを作成支援 ・BTS(肉用牛技術改善総合システム)を活用し、飼養管理技術を指導する。そして、和子牛及び肥育牛の飼養管理技術の高位平準化に向けて、出荷成績及び飼養管理状況の分析に基づき指導 ・耕種農家による飼料供給と畜産農家での利用体制を地域振興センター等と連携しながら構築し、利用供給体制の推進や地域資源循環を図るための支援を行う。 ・牛舎等生産施設・機械の整備及びスマート農業技術の実装に当たり、肉用牛の生産計画やスマート機器の導入計画等の作成を支援、担い手の経営管理能力の向上及び円滑な経営継承のため、新規就農者の確保・育成に向けて、OJT研修や肉用牛経営体への就農、及び法人化に向けた経営体制の整備を支援	・放牧組織運営、需給調整、放牧実施者との連絡調整	全農とやま ・とやま和牛酒粕育ちのブランド化推進 ・放牧組織運営、需給調整、放牧実施者との連絡調整 融資機関 ・事業等を活用し、連携して支援 融資機関 ・経営検討会、制度資金の活用支援	・成分分析、優良雌牛の供給	家畜保健衛生所 ・家畜衛生に係る指導、 ・採卵・ETの実施、妊娠診断・疾病予防対策 富山県飼料用米等生産利用推進協議会 ・取組方針、情報共有 畜産振興協会、地域のクワスター協議会 ・補助事業の実施 県農業会議 ・雇用就農資金の活用支援、農業経営体法人化等支援事業	(国)とやまの畜産暑熱対策支援事業 (国)畜産担い手ナビゲート事業 (国、県、市)農業経営・就農サポート推進事業

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関（役割分担）					活用事業
						市町村	JA	民間企業	試験研究機関	その他	
富山県	7	中小家畜経営体の経営安定と環境と安全に配慮した経営支援	R6 ～ R8	畜産、経営	○地域の現状と課題 ・養鶏を取り巻く経営環境は、飼料及び資材価格の高止まりによる経営費の圧迫が続いている。一方、新型コロナウイルス感染症の影響や、高病原性鳥インフルエンザや鶏卵価格は乱高下した。人口減少を見据えた適正な生産量とするため飼養羽数を減少した経営体が多い。さらに、令和6年能登半島地震により施設や設備に多大な被害を受け、まだ復旧目途が立っていない経営体もある。飼料用米給与に加えて子実用ともろこし生産が広がっていることから、安定生産及び利用供給体制の構築と養鶏農家での給与方法について支援が必要である。 ・養豚経営においても飼料価格の高騰が続くなか、飼養施設の老朽化等により生産効率が低下し、収益性の低迷が続いており、施設改善や飼養管理の適正化による生産性向上が必要である。 ○目標達成に向けた活動方法 ・養鶏および養豚経営に対し、関係機関の連携により現状を把握し、飼養管理や衛生管理等について総合的な指導を実施。また、令和6年能登半島地震による被害対応は、各種事業の情報を注視しながら資金調達とともに支援。 ・飼料用米や子実用ともろこし等の地域資源の利用については、耕種農家や関係機関との連携により利用供給体制を支援するとともに、新規取組希望者の意向把握や情報提供を行い、特色ある畜産物の生産販売を支援。 ・家畜伝染病の防疫対策は、家畜保健衛生所と連携し、飼養衛生管理基準の徹底とともに、防疫対策の徹底に努めるよう、効果的な対策実施を支援。	地域資源の活用について情報共有する	JA等金融機関 ・経営改善指導	民間企業	試験研究機関	公庫 ・経営改善指導	(国)家畜伝染病防疫体制強化支援事業 (県)優良肉豚生産システム化事業 (県)とやまの畜産暑熱対策支援事業 (国)畜産物価格安定制度 (国)配合飼料価格安定制度 (国)災害復旧事業 (国)耕畜連携濃厚飼料生産利用支援事業
石川県	1	能登半島自信で被災した地域農業の創造的復興に向けた取組支援	R5 ～ R11	稲作、畜産、自然災害対策	令和6年1月に発生した能登半島地震により、管内で水田を中心とする農地・農業用施設をはじめ、広い地域で甚大な農業被害が生じた。地震からの復旧・復興において、単に被災前の状態に戻すだけでなく、高齢化、担い手不足、人口減少という課題を踏まえ、持続的な地域農業に向けて、地域計画の見直し、集落営農組織・担い手法人の課題解決を支援する。	七尾市、志賀町 農地情報の提供 補助事業の手続き 現地相談窓口対応	JA志賀 JA能登わかば 資金繰り、営農面の支援、現地相談窓口対応			(国)農地利用効率化等支援交付金（被災農業者支援タイプ）	
石川県	2	復旧・復興に向けた取組の加速化・見える化	R5 ～ R11	就農	能登半島地震で家屋や農業用施設の倒壊が多発し、農地や排水路等の生産基盤にも甚大な被害が生じた。また、新採から復旧途中の9月には豪雨災害が発生し、農地や水路に土砂や流木等が流入。関係機関が一体となったワンストップの支援組織設立し、被災農業者の営農再開の伴走支援を実施する。	農地情報の提供 補助事業の手続き、事業説明会の開催	JAのと 奥能登農業委託協議会設立・運営	石川県農林総合研究センター 技術実証・マニュアル作成		(国)農地利用効率化等支援交付金（被災農業者支援タイプ）	
福井県	1	活力ある農業経営体の育成	R6 ～ R10	経営、就農、6次産業化	○地域の現状と課題 ・福井県農業をリードする経営体が少ない。 ・農業経営環境が厳しい中、一層の経営改善が必要である。 ・地域計画達成に向けて、関係機関と協力した活動が重要である。 ・新規就農者の育成が重要である。 ○目標を達成するための活動方法 ・経営発展に向けたロードマップ実行支援 ・人材の確保・育成支援 ・農業経営・就農支援センター等の活用による経営改善支援 ・県、JA、市町が協力した地域計画達成支援 ・市町の就農システム確立支援	・経営発展ロードマップの共有 ・地域計画の達成 ・就農システムの確立支援	・経営発展ロードマップの共有 ・地域計画達成支援 ・就農システム確立支援	—	・経営発展ロードマップ実行支援	農業経営・就農支援センター ・経営発展ロードマップ実行支援 ・経営改善支援 地域資源活用・地域連携サポートセンター ・経営改善支援	(国)農業経営・就農支援体制整備推進事業、 (国)地域資源活用価値創出推進事業
福井県	2	未来につながる米産地の強化	R6 ～ R10	稲作	○地域の現状と課題 ・スマート農機の普及が進んでいない。 ・いちほまれブランド化が必要である。 ・有機栽培が進んでいない。 ○目標を達成するための活動方法 ・スマート農機の実演会や経営調査の実施 ・いちほまれ課題解決圃の設置 ・有機栽培の実態把握と検討	・スマート農機普及の支援 ・有機栽培実態把握の協力	・スマート農機実演、経営調査の支援 ・いちほまれ課題解決実証圃の設置支援 ・有機栽培実態把握の支援と検討	農機メーカー ・スマート農機実演の協力	・スマート農機実演会、経営調査支援 ・いちほまれ課題解決圃の設置支援 ・有機栽培実態把握の支援	水田農業レベルアップ委員会 ・合意形成	—
福井県	3	園芸タウンを核とした産地振興	R6 ～ R10	野菜、果樹	○地域の現状と課題 ・園芸タウンを核とした園芸産地の振興が必要である。 ・主力品目である白ネギやウメ、振興品目であるブドウの推進が必要である。 ○目標を達成するための活動方法 ・各地区園芸タウンの推進 ・白ネギ、ウメ、ブドウの園芸タウンの推進	・園芸タウンを核とした園芸産地振興の支援	・各地区園芸タウンの推進 ・主力品目や振興品目の推進	—	・主力品目や振興品目推進の支援	園芸タウン推進協議会、園芸レベルアップ委員会 ・合意形成	—
福井県	4	新幹線開業を契機とした福井の食のブランド化	R6 ～ R10	6次産業化、畜産、果樹	○地域の現状と課題 ・中山間地域において、集落機能が低下している。 ・新幹線開業を機に、オリジナル品目等のブランド化が必要である。 ○目標を達成するための活動方法 ・農村RMOの推進 ・県産ブドウの販売促進とPR強化 ・若狭牛の生産拡大とブランドPR	・中山間地域における農村RMOの推進と支援 ・県産ブドウ生産の支援 ・若狭牛生産拡大とブランドPRの支援	・県産ブドウの生産と販売促進、PR強化 ・若狭牛の生産拡大、ブランドPR	—	・ブドウ栽培の技術支援 ・若狭牛の生産拡大支援	—	—